

2020年度 JANPIA非資金的支援の評価勉強会

非資金的支援を促進するための  
**評価と指標の考え方**

米原 あき

東洋大学

専門社会調査士

「そのものの自体」の“よさ”  
内在的価値=本質

# 評価とは？

**EVALUATION=Extract Value**

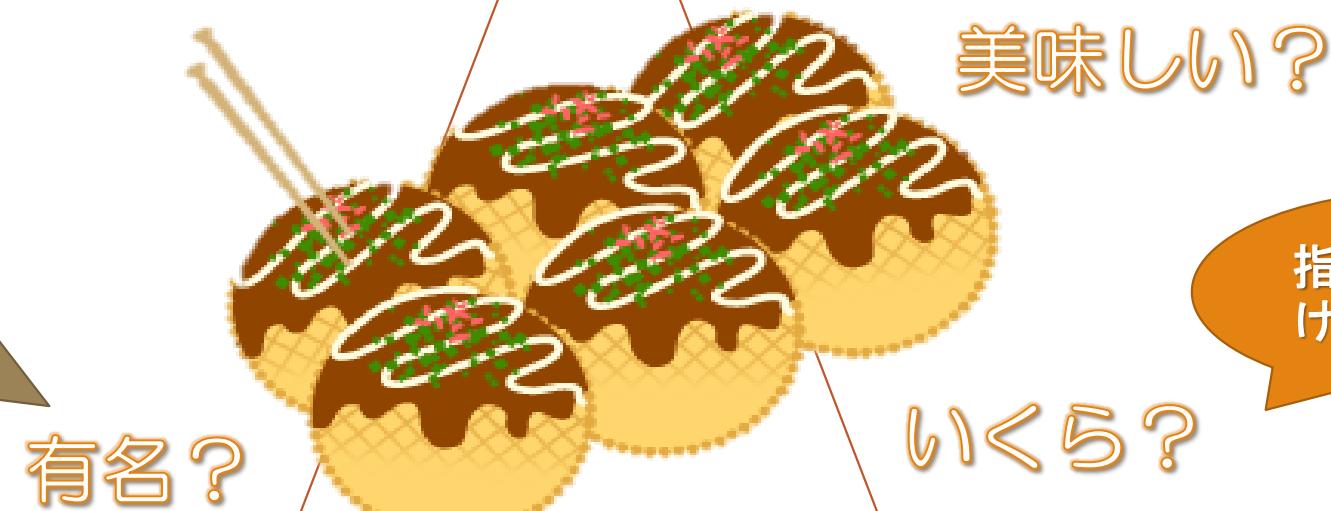
(価値value(=善さ)を引き出すextract)

それが社会（外部）に  
もたらす“よさ”  
社会的価値=意義

客観的に見た  
そのものの“よさ”  
外在的価値=値打ち

「そのものの自体」の“よさ”  
内在的価値=本質

めっちゃ美味しい  
まあまあ美味しい  
どちらともいえない  
あんまり美味しいくない  
めっちゃ不味い



『大阪で有名な食べ物  
と言えば何?』  
→何%が「たこ焼き」  
と回答したか?

それが社会（外部）に  
もたらす“よさ”  
社会的価値=意義

客観的に見た  
そのものの“よさ”  
外在的価値=値打ち

指標=値段だ  
けじやない！

# 評価とは？

「評価は物事のメリット、値打ち、意義を体系的に明らかにすることである」  
(Scriven, 1991:139)

*“Evaluation is the systematic determination of merit, worth and significance of things”*

$$\begin{array}{c} \text{評価} = \text{事実特定} + \text{価値判断} \\ (\text{Evaluation}) \quad \quad \quad (\text{Factual identification}) \quad \quad \quad (\text{Value determination}) \end{array}$$

出所：佐々木亮（2010:3）

データ、エビデンス

指標

# 指標➡ロジックモデルに基づいて検討する

アウトカム（→指標化したいこと）	指標
研修参加者が積極的に学び、研修内容を習得する。 →3週間の研修が充実していたか	
みどりが溢れる活気のあるまちになる。 →市民が余暇生活を楽しんでいるか	
市立病院が人々の健康づくりに貢献している。 →病院が市民に活用されているか	

- 一番トンデモナイ指標はどれですか？
- 一番マトモな指標はどれですか？

# 指標➡ロジックモデルに基づいて検討する

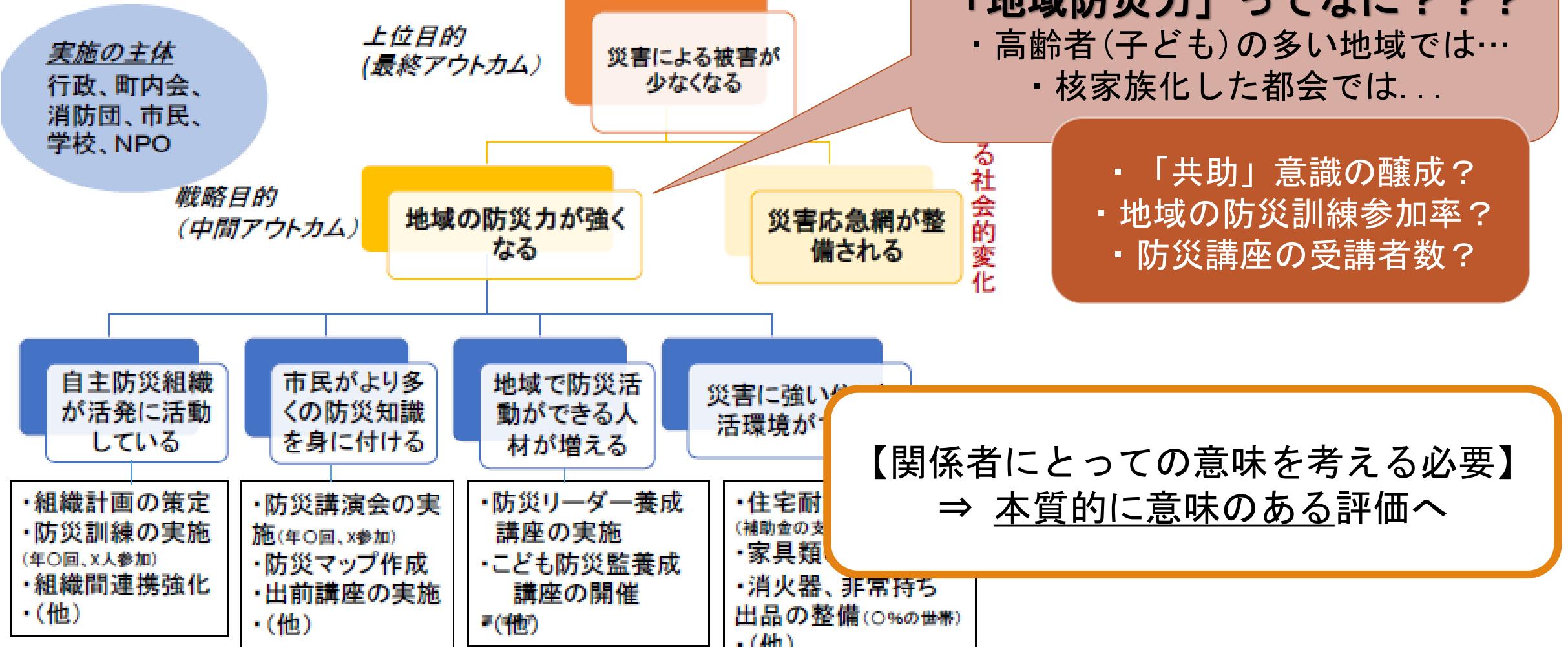
アウトカム（＝指標化したいこと）	指標				
研修参加者が積極的に学び、研修内容を習得する。 →3週間の研修が充実していたか	体重				
みどりが溢れる活気のあるまちになる。 →市民が余暇生活を楽しんでいるか	一人当たり公園面積				
目標値KPI	平成X年	平成(X+1)年	平成(X+2)年	平成(X+3)年	平成(X+4)年
公園面積／人 m <sup>2</sup>	4 m <sup>2</sup>	5 m <sup>2</sup>	5 m <sup>2</sup>	5 m <sup>2</sup>	5 m <sup>2</sup>

- ➡ 「みどり溢れる」 = 公園面積？
- ➡ 人口減少=公園面積／人、上昇！  
（「活気ある」とは？？？）

||| 「価値value」を引き出せているか  
評価≠測定 →セオリー

# 指標➡ロジックモデルに基づいて検討する

## 【例】T市安全・安心な都市：地域の防災力向上



# 指標△既存の指標にとらわれない

「追いかけたくなる指標」  
→Big visionから指標を描く

「指標が存在するか否か」ではなく「何が知りたいか」  
(=改善のためにはどんな情報が必要か)

☞だからロジックモデルが役立つ

☞その必要に応じて「質か量か」を検討する

準備

- ・ロジックモデルの作成
- ・ロジックモデルに基づく指標の策定

収集

- ・評価目的（=ロジックモデル）を念頭に置いたデータ収集

活用

- ・ロジックモデルに照らした結果の解釈
- ・改善に向けた結果の活用

「何が知りたいか」が念頭に  
あれば、柔軟に対応できる

防災訓練を行った…

「とにかく皆さんに来て欲しい！」

⇒ 参加者数（どの地域が少ない？）

「ちゃんと技術を身に付けて欲しい！」

⇒ 演習・実習（属性による違い？）

# 良例：安心・安全な地域社会づくり支援事業(非資金的支援)

Thanks to: 日本更生保護協会様

【スーパーゴール】罪を犯した人が再び社会の一員として包摂されることで更生し、再び犯罪に至らないようにすることにより、安全・安心の地域・社会になる。●既存団体の運営体制の強化のみならず、更生保護を担う新たな団体等の裾野が広がることで、地域社会における更生を支える基盤の充実が図られる。●本支援事業による取組の全部または一部が、国または地方公共団体の政策として取り入れられ、事業化される。

⇒そのための「非資金的支援」とは？？？

更生保護関連団体以外（福祉、医療、教育関連ほか）の様々な団体が本事業に関する事業に参画することで、更生保護の担い手の裾野が広がる。

地域における更生支援の課題（ニーズ）の解決に資するリソースを持つ団体に対して、事業参画を働きかける。

福祉、教育、医療等の関係団体に対して、更生保護の活動に関する理解促進のための広報・啓発等を行う。

実行団体のスキルアップや組織基盤の強化が図られることにより、刑務所出所者等支援対象者に対する民間公益活動が活性化される。

実行団体の中間評価及び事後評価支援

実行団体向けの組織基盤強化研修の実施

実行団体と地域に存在する社会資源とのコーディネート支援

実行団体間及び関係機関団体との連携が強化されることにより、地域における多機関連携が実現する。

実行団体同士、もしくは実行団体と関係団体のマッチング支援

実行団体、関係団体のプラットフォーム作り支援

実行団体相互もしくは関係団体と学び合う場の提供支援

# 良例：安心・安全な地域社会づくり支援事業(非資金的支援)

Thanks to: 日本更生保護協会様

【スーパーゴール】罪を犯した人が再び社会の一員として抱堪されることで更生し、再び犯罪に至らないようにするることにより、安全・安心の地域・社会づくりが実現する。このためには、**連携の強化**のみならず、更生保護を担う**新たな事業者**の参画・協力による活動が不可欠である。

本事業に参画・協力した事業者のうち、更生保護活動の担い手又は協力者となった**事業者の数**

更生保護関連団体以外（福祉、医療、教育関連ほか）の**様々な団体が本事業に関する事業に参画することで、更生保護の担い手の裾野が広がる。**

すべての項目に義務的に張り付ける…?  
⇒ 改善に有用な情報  
⇒ 経年変化を追いかけたいポイント

連携の強化により、刑務所出所者等支援対象者に対する民間公益活動が活性化される。

- ①ネットワークにつながる団体・個人の数
- ②NW内の交流・連絡の方法、頻度、内容
- ③NWを活用して行う支援活動の内容

実行団体間及び関係機関団体との**連携が強化**されることにより、地域における**多機関連携**が実現する。

## ⇒事業者の多様性？

- 「多ければ良い」ではない？！
- ⑩ 参画団体(福祉・医療・教育)の網羅性・バランス
- ⑩ 地域によるニーズの違い(教育ニーズ？福祉ニーズ？)

## ⇒初期値〇？

- 現状把握（事前調査）を！
- ⑩ “増える”ことだけが価値ではない、“維持”が重要なことも
- ⑩ 目標値は本当に必要か？“変化”に注目すべきケースも

## ⇒静的情報と動的情報

- ⑩ 「アウトプット指標」と「アウトカム指標」(連携が“強化”されている、“機能”している、“活用”されている)  
⇒ 社会調査で確認できる

<p>ロジックモデルから、指標化したい／すべきアウトカムを選ぶ</p>	<p><b>アウトカム (ロジックモデルより)</b></p> <p><b>【例】地域防災力が高まる</b></p>	
<p>把握したい「状況」を描く</p> <p>④既存の指標に捉われない ⑤「指標化できるか否か」を考えすぎない</p>	<p><b>把握したい状況・現象 (何を測りたいのか)</b></p> <p>万一災害が起こっても、率先して「私が助けに行く」と思い行動できる住民が多いので、安心して暮らすことができる</p>	
<p>上記の状況を「具体的に切り出す(=操作化する)」としたら？</p>	<p><b>指標化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「自主防災組織」に対する地域住民の安心感</li> <li>「共助の意識が浸透している」という地域住民の実感</li> </ul> <p>⑥「自主防災組織率」や「(共助意識を育成するための)市民講座の開講数・参加者数」などはアウトプット指標(≠アウトカム指標)</p>	<p><b>注意！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトプット＝直接的な結果</li> <li>・アウトカム＝状況の変化</li> </ul>
<p>社会調査によってデータを集めの場合、どのような聞き方で収集するか？必要なデータにつながる適切な聞き方とは？</p>	<p><b>質問項目 聞取り項目 (調査の場合)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あなたの地域の自主防災組織についてどう思いますか？ とても頼りになる～全く頼りにならない</li> <li>・あなたの区では、災害時、被害を軽減するために「住民同士の助け合い行動ができる」と思いますか？ とてもそう思う～全くそう思わない</li> </ul>	<p><b>【アウトプット指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災出前講座の実施状況</li> <li>・市民総参加訓練への参加率</li> <li>・住宅再建共済への加入率</li> <li>・自主防災組織の有無</li> </ul> <p>➡ アウトプットだけでよい…？</p>

# 指標策定の留意点

## ■妥当性のある指標を設定すること

- ・測定における妥当性とは...

「**測定すべきものを測定していること**」

(例：みどり溢れる=公園面積？)

⇒ロジック・モデルに基づいて指標を設定する

## ■目標値は要不要を検討したうえで明確に設定すること

- ・根拠となるデータに基づき、**意味が明らかで曖昧さのない数値を**

(例：参加率目標値=80% …なぜ？)

- ・**目標値が必要ない**ケースも少なくないので注意

# 指標策定の留意点

## ■実績値と目標値の比較の基準を的確にすること

- ・「目標値－実測値（目標値への到達度）」OR  
「介入開始時－終了時（変化率）」  
⇒目標値を達成することが重要なのか、（目標値に届いていなくても）確実に変化が起こっていることが重要なのか、つまり、上位目的は何か。  
**注 相対評価RANKING(成果) ≠ 絶対評価RATING(変容)**

## ■指標間・プログラム間の比較は丁寧に行うこと

- ・比べられないものは比べないこと  
(例：A地区とB地区の自主防災組織・組織率  
...高齢化地域と再開発地域では比較不可能)

ストレスフルな指標?  
それとも、

わくわくする指標?  
旅のお供になる指標?



ご清聴ありがとうございました